

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 3 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	4092000019		
法人名	医療法人 柳川慈恵会		
事業所名	グループホーム 春		
所在地	福岡県柳川市西浜武1085-1 〒832-0081 (電話) 0944-72-2211		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成22年3月10日	評価確定日	平成22年3月30日

【情報提供票より】(平成 22 年 2 月 24 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 6 月 1 日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人	
職員数	18 人	常勤	18 人	非常勤 0 人 常勤換算 18 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての～	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有(100,000 円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,000 円程度	

(4) 利用者の概要(2 月 24 日現在)

登録人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護 1	5 名	要介護 2	7 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	67 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	甲斐田医院、さいしょ歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

敷地内には母体の医療機関や介護老人保健施設等があり、利用者にとっての第二のわが家として約5年前に開設したグループホームである。柳川の風情と趣きの中、自由な時間をゆったりと味わい、やわらかな陽ざしに包まれながら楽しんでいただくため、「桜」と「菜の花」のふたつの癒しの部屋(ユニット)からなる「春」を届けたいという想いで開設した。「ぬくもりのある家でいつも笑いが絶えず、苦しい時は助け合い、悲しい時は慰め合いながら互いの気持ちを大切に安心して生活を送る」の理念のもとに、職員は熱意をもって従事し、安心と尊厳ある日々が営まれるよう支援している。利用者が地区の運動会を見学したり、近隣の保育園児や小学生の訪問等を通じて、利用者は和らぎ、寛ぎ、華やぐ日々を過ごしている。いつも笑顔が絶えず、お互いに助け合いながら共有の心を持ち、ともに生活する気持ちを大切にしているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	前回の評価結果について、職員全体で改善について協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で、月2回、地域ボランティアによるエレクtoon演奏会を開催したり、人権研修を行うなど、職員全体での積極的な取組みと具体的な成果がみられる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)	今回の受審にあたり、職員全体で評価項目の内容を検討し、日々の業務の気づきや職員全体の意識向上に繋げるなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)	民生委員、老人会会長、行政の担当職員、家族等の参加のもとに2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。会議では、ホームの活動・行事報告などを行うほか、介護サービス情報の公表制度について参加者から質問が出たり、行政職員から他事業所の運営推進会議の取組みについて説明を受けるなど、会議を活かした取組みがある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)	家族の面会時や運営推進会議などを通じて、日常の様子や健康状態などを報告している。年2回の家族会で、利用者とともに食事をしながら、利用者の写真を掲載したホーム便りを配布し、ホームでの状況や行事、外出の様子、新人職員の紹介などを行っている。年2回の家族会、餅つきなどの行事等、職員と家族とのかかわりを通じて、意見や苦情を表出しやすい雰囲気づくりへの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	利用者による地区の運動会の見学や、月2回の地域ボランティアによるエレクtoon演奏会の開催、近隣の小学生との七夕会での交流、保育園児の慰問など、地域との交流が図られている。老人会長に対し、気軽にホーム見学へ来られるよう声かけを行ったり、散歩時に、近隣の方に対してもホームに気軽に立ち寄ってもらうよう日々声かけを行っている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「ぬくもりのある家でいつも笑いが絶えず、苦しい時 は助け合い、悲しい時は慰め合いながら互いの気持 ちを大切に安心して生活を送る」の理念のもと、 利用者の気持ちを尊重し、地域とのかかわりを重視し ながら支援を行っている。利用者による地区の運動 会の見学や近隣の小学生・保育園児の慰問など、地 域の中で利用者の生活を支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念が掲示されており、自然と目に入る 工夫がある。毎日、朝・昼の申し送り時に理念と接遇 心得を唱和し、職員全体で理念を共有しあっている。 毎月のユニットカンファレンスや3ヶ月毎の合同定例 会、毎日のミニカンファレンスを通じて、理念に基づ いたケアの内容について協議するなど、理念の実践に 向けた取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	利用者による地区の運動会の見学や、月2回の地 域ボランティアによるエレクtoon演奏会の開催、近 隣の小学生との七夕会での交流、保育園児の慰問な ど、地域との交流が図られている。老人会長に対し、 気軽にホーム見学へ来られるよう声かけを行ったり、 散歩時に、近隣の方に対してもホームに気軽に立ち 寄ってもらうよう日々声かけを行っている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組ん でいる	前回の評価結果について、職員全体で改善につ いて協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この 過程で、月2回、地域ボランティアによるエレクtoon 演奏会を開催したり、人権研修を行うなど、職員全体 での取組みと具体的な成果がみられる。今回の受審 にあたり、職員全体で評価項目の内容を検討し、職 員の意識向上に繋げるなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	民生委員、老人会会長、行政の担当職員、家族等 の参加のもとに2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。 会議では、ホームの活動・行事報告などを行うほか、 介護サービス情報の公表制度について参加者から 質問が出たり、行政職員から他事業所の運営推進 会議の取組みについて説明を受けるなど、会議を活 かした取組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議に行政の担当職員が参加したり、運 営上の疑問点やサービス提供について相談を行うな ど、行政との連携を図る取組みがある。集団指導や 人権についての勉強会で使用する資料について相談 を行い、行政職員からアドバイスをもらうなど、行政 との連携を図りながら質の向上に向けた取組みがあ る。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	年間の研修計画を作成し、行政の研修資料を活用 して年2回、内部研修を行い、成年後見制度や日常生 活自立支援事業の制度について職員全体で学ぶ取 組みがある。家族会で制度の概要や利用方法など についての資料を配布し、説明を行うなど、活用に向 けて支援が行われている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につい て、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族の面会時や運営推進会議などを通じて、日常 の様子や健康状態などを報告している。年2回の家族 会で利用者とともに食事をしながら、利用者の写真 を掲載したホーム便りを配布し、ホームでの状況や行 事、外出の様子、新人職員の紹介などを行っている。 法人と合同による餅つきや敬老会、文化祭などに招 待し、家族と交流を図る取組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、年2回の家族会、餅つきな どの行事等、職員と家族とのかかわりを通じて、意見 や苦情を表出しやすい雰囲気づくりへの取組みがあ る。意見や苦情、要望については、内容に応じてその 場での回答を行い、家族に安心感を与えたり、申し送 りや定例会にて検討し、対応するなどの取組みがあ る。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	管理者は、毎月のユニット定例会や3ヶ月毎の合同 定例会、アンケートなどで職員一人ひとりの意見や要 望を聞き、業務改善に向けて検討するなど、離職を抑 える配慮や工夫がある。法人と合同で敬老会や文化 祭などを開催し、法人全体で職員が顔なじみの関係 をつくることで、利用者へのダメージを防ぐ取組みが ある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時にあたっては年齢・性別などの制限はなく、やる気を重視しての採用である。介護計画書の作成や調理は担当職員が行い、勉強係やレク係、接遇係などは、一年毎に輪番制で行うなど、職員一人ひとりの個性を尊重し、職員全体で共に補いながら、特技や得意分野での能力を発揮できる体制がある。外部研修については、内容に応じて勤務扱いとし、資格取得を目指す職員に対して、勤務調整行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に全職員が参加して人権学習を行い、人権について理解を深める取り組みがある。日々のケアを通じた接遇や言葉使いについて、定例会で検討したり、職員間で注意し合うなど、職員全体で常に利用者の人権を尊重し、利用者一人ひとりへの尊敬の念を持ち、人権意識を喚起する取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内の研修への参加や外部研修の案内を提示して参加を募ったり、管理者が研修内容等を考慮して参加を促す等、可能な限り研修への参加の機会を確保している。受講後は受講報告会を行い、職員全体のスキルアップを図っている。年間計画を作成し、毎月、テーマを決めて内部研修を行い、質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会のブロック研修や新人研修に管理者や職員が参加し、他事業所との情報交換や交流が図られるなど、質の向上に向けた取り組みがある。職員が、介護実践者研修や連絡協議会に参加するなど、質の向上に向けた取り組みがある。		同業者との相互交流やネットワーク活動などを通じて、新たな発見や気づきを生む機会を積極的に持ち、更なる職員の参加を通じて、サービスの質の向上に取り組まれること期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の本人・家族への面談やホーム見学、医療機関・介護サービス事業所の職員などからの情報収集などを通じて、本人の様子を見ながら馴染みの関係を作っていく取り組みがある。入居後は、利用者が安心して過ごせるように環境づくりや声かけを工夫し、かわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し、徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者に寄り添い、仏壇に供える花やゆで卵の作り方、昔の知恵、食器の置き方など、人生の先輩として日常のかかわりの中で自然と学びあう関係づくりへの取り組みがある。職員は、常にあたたかい雰囲気を保つと同時に、利用者が職員に自然に協力的な声かけや感謝の言葉をかけるなど、お互いを尊重し支えあう関係を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族の参加による担当者会議や入居時の面談、家族の面会、運営推進会議等を通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。家族から利用者の生活歴等の情報を収集し、日常のかかわりの中で利用者の動作や表情等から思いや意向を汲み取り、利用者の望む生活や援助目標、ケアの具体的な内容について職員全体で検討する取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて、利用者・家族・担当職員・計画作成担当者間で、本人・家族の意向及びケアの内容について話し合い、担当職員と計画作成担当者が介護計画書を作成する取り組みがある。日常のかかわりの中で職員間で毎日ケアの実施状況を把握し、利用者の出来る力やわかる力を把握し、職員間の気づきなどを介護記録に記録し、情報を共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	利用者に関する心身状況の変化などについて毎日 のミニカンファレンスや申し送り時などに確認を行い、 月に1度の担当者会議にて、全職員にて利用者や家 族の意向の確認、ケアの手順・変更内容について検 討が行われている。3ヶ月毎や6ヵ月毎、状態変化の 際は、職員全体で介護計画書の内容を評価・検討し、 見直しや再作成を行う等の取り組みがある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制を活かした協力医療機関の定期的な 往診や連携支援、入院先の医療関係者との連携及 び情報提供、協力病院への受診介助など、利用者の 状況や家族の要望に応じて、柔軟に対応している。地 域ボランティアによるエレクトーン演奏会を開催した り、外出した際、利用者の自宅付近を通り、馴染みの 場との関係継続を図る等の支援がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利 用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援し ている。ホーム協力医との連携による週1回の定期的 及び緊急時の往診や、利用者の状態に応じた協力病 院への受診支援がある。必要時、協力歯科医院の定 期的な往診がある。かかりつけ医への受診につい ては、家族と協力しながら支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や終末期における対応を説明し、 早い段階で主治医から利用者の状態について家族な どに説明し、意向を確認している。状態変化時や重 度化する前に利用者・家族の意向を再確認し、家族・ 主治医・ホーム間で協議し、医療機関などでの入院 治療を行う際の連携支援が行われている。		重度化及び終末期に向けて、今後、ホームでの看 取りを希望される可能性を踏まえて、利用者・家族・ 主治医・ホームなどを交えて協議し、法人全体で本 人・家族の希望に沿った更なる支援体制が整えられ ることを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心 がけ、利用者の尊厳やプライバシーを大切にした言 葉使いや対応を徹底し、利用者への敬愛の念を常に 持つなど、職員の意識の向上を図る取組みがある。 入浴や排泄など、利用者の表情やタイミングを見計 らってのさりげない声かけや対応等、利用者の自尊 心やプライバシーに配慮した対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある ものの、そのときどきの利用者の気持ちを尊重し、決 して無理強いせず、様子を見ながら声かけを行っている。 利用者の希望や状況に応じて、食事や入浴、排 泄のタイミング、食事など、利用者一人ひとりのペ ースを尊重し、寄り添って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	法人内の管理栄養士が献立を作成し、毎月の郷土 料理や赤飯など、全てホームで調理している。オー プンカウンターから料理の匂いが漂うなど、食事を 楽しむ為の細やかな配慮がある。利用者がテー ブル拭きやお盆拭きを行うなど、利用者と職員 が協力しながら食事を楽しく工夫や取組みがあ る。家庭的で和やかな雰囲気の中で食事を 楽しめるような取組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイ ミングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	週3回入浴を行っているが、利用者の体調に配慮し ながら、利用者の希望や状況に応じて柔軟に対 応している。入浴が楽しく心地良い時間となる よう柚子湯や菖蒲湯を行ったり、お風呂が苦 手な方にも無理強いないことなく、声かけを 工夫したり、清拭を行うなど、快く入浴 できるように支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	テーブル拭きやお盆拭き、洗濯物たみなど、利用 者のできることを把握し、利用者の持っている力を引き 出す支援を行っている。編み物や縫い物が得意な 利用者が手袋や雑巾を作ったり、法人内の文化祭や 花祭り、お茶を楽しむ会に参加するなど、利用者の得 意なことや楽しみごとを把握した上での働きかけがみ られる。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	散歩時、敷地内に祀ってあるお地藏さんをお参りし たり、地区の運動会への見学や桜見、ひまわり見物、 コスモス見物、ドライブ、自家菜園の収穫等、利用者 の状況に応じてできるだけ戸外に出かける支援が行 われている。正月やお盆、法事等は、家族の送迎に より自宅や親戚宅に外出するなど、利用者・家族の個 別の希望に応じて支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。職員は利用者の様子 を細かく観察・見守りながら、職員間の連携を図り、統 一した声かけを行うなど、利用者の自由な暮らしを支 える対応と安全面への配慮がある。言葉の暴力による 拘束などについては、職員間で気づきを促し、注意 し合うなど職員の意識向上に繋げる取り組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回以上、消防署の指導による避難訓練を実施 し、避難経路の確認や消火器の使い方等の指導が行 われている。緊急時は、同敷地内にある法人内の医 療機関や事業者との連携、協力を得る体制がある。 地域の協力体制については、今後、運営推進会議や 日々のつきあいを通じて、働きかけを行っていく予定 である。		今後、予定されている運営推進会議での働きかけ などを通じて、地域や家族への協力を呼びかけ、避 難訓練への参加や協力、災害時の協力体制につい て検討されることを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	法人内の管理栄養士が栄養バランスや栄養価を考 慮した献立を作成し、季節の食材や郷土料理などを 提供している。お茶やコーヒー、紅茶などを自由に飲 めるようにしている。毎回食事を把握し、水分は1日 1500ccを目途に水分チェックを行い、水分摂取量や 食事摂取量が少ない利用者へは、頻繁な声かけを行 うなど、栄養摂取や水分確保への支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の周りには、色とりどりの季節の花が飾られ、 ホールには観葉植物、手作りのカレンダー、利用者の 手作り作品、季節を感じる飾りつけ等工夫されている。 ホール内は広く開放的であり、自然光を採り入 れ、掘りごたつの和室があり、明るく快適な空間で ゆっくりと居心地良く過ごせる工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室は、畳や障子など和風で落ち着いた雰囲気か あり、布団や家具、パソコン、鏡台、座椅子、大型テレ ビなど、馴染みの物や使い慣れた物が持ち込まれて おり、利用者にとって安心して居心地よく過ごせる工 夫や配慮がある。		

は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号